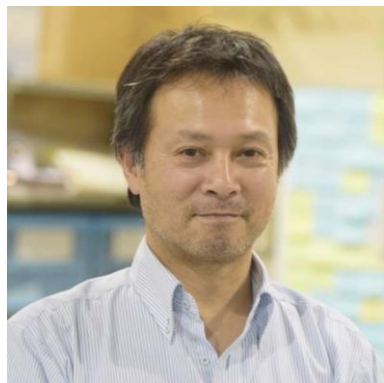




協生 AI x Design リサーチコアセミナー



タイトル：「第二次ブームの AI 研究から不便益に基づくデザイン研究へ」

講演者：京都先端科学大学 工学部
教授 川上 浩司 氏

日 時：令和 5 年 2 月 28 日（火）11:00-12:30

実施方法：ネット配信方式（Webex）

下記の事務担当へ前日までにご連絡下さい。（参加費無料）

講演要旨

.....

学生時代に人工知能（AI）の第二次ブームが到来し、人の最も知的な活動をコンピュータで実現してやろうと、機械の設計を AI 適用の題材にしました。その後、大学の教員になってからも、同じテーマで研究を続けていたのですが、いつしか、AI よりも人の設計（デザイン）活動の方に興味に移り、それに連動するように所属も工学から情報学、そしてデザイン学に移りました。その間に、「人は何もしなくて良いですよ」という自動化志向から、逆に「不便益」という考えに基づいて人の手間やコミットが本質となる人間機械系を志向するようになっていきます。本講演では、講師のこのような研究経験に基づき、人間と協生する未来の AI のあり方について論じます。

講演者略歴

1987 年京都大学工学部卒業、1989 年同大学院工学研究科修士課程修了。同年岡山大学工学部助手、1998 年京都大学情報学研究科助教授（後に准教授）、2014 年同大学デザイン学ユニット（後に情報学研究科）特定教授、京都先端科学大学教授を併任（後に専任）。博士（工学）。著書に『不便から生まれるデザイン』（2011）『不便益という発想』（2017）『不便益』（2017）『不便益のススメ』（2019）など。計測自動制御学会（1991、2003、2013）ヒューマンインタフェース学会（2010、2018）自動車技術会（2014）で論文賞受賞。日本感性工学会（2020）で出版賞受賞。

問合せ先：協生 AI x デザイン拠点 西本 一志 (knishi@jaist.ac.jp)

（事務担当：研究施設支援係 (sien@ml.jaist.ac.jp)）